

# おばあちゃん みていてね【高学年3 - (2)】

## - 「心のノート」を活用した取組み -

(1) 主題名 生命をつなぐ【3 - (2)】 関連項目【4 - (5)】

(2) ねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重し、力強く生きぬこうとする心を育てる。

(3) 資料名 「おばあちゃん みていてね」

(4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 動物の親子の 写真を見る。	どう思いましたか。 ・かわいい。 ・おかあさんはとってもやさしそう。 ・親はいつも子どものそばにいる。 ・赤ちゃんが必死にえさを食べている。	動物の親子のふれあいが 十分感じられるよう授乳 の様子、えさを与えている 様子の写真をとりあげる。
展 開	2 資料「おばあちゃん みていてね」を読んで話し 合う。  3 「うん。」とつ ぶやいた「わたし」の気持ちを考え る。  4 自分の生活を 振り返る。	病院へ急ぐ「わたし」は、どんな気持ち でしょう。 ・おばあちゃん、大丈夫かな。 ・がんばって。 ・死なないで。 「わたし」は、おばあちゃんに対して どんな思いをもっていたのだろう。 ・やさしい。 ・大好き。 ・はげましてくれる。  心の中で「うん。」とつぶやいた「わ たし」はどんなことを考えたのでしょ う。 ・おばあちゃん、今までありがとう。 ・がんばるよ。みていてね。 ・おばあちゃんからもらった命だから 大切にしていこうよ。  自分の今までを振り返ってみよう。 ・ピアノをがんばって上手にひけたと き、ほめてもらってうれしかった。 ・おとうさんに自転車の練習を手伝っ てもらって、乗れるようになった。	「わたし」の必死の思いが しっかり出るようにする。  あたたかく見守ってくれ たおばあちゃんの気持ち についても触れるように する。  考える時間を確保し、ま た、発表ではできるだけ多 様な思いが出るようにし、 その思いを共有できるよ うにする。  「心のノート」p65をあら かじめ記入させておき、 発表の際に役立てる。 見守り、支えてくれた親・ 祖父母に対しての感謝の 気持ちについても考える。
終 末	5 これからの自 分について考え る。	これからの自分の生命について今思 っていることを家族の人に伝える手 紙を書こう。 ・お母さん、おばあちゃんありがとう。  ・大切な命を大事にしてがんばるよ。	「心のノート」p65の6行 詩を読み、これからの自分 の生命について考えた後、手紙 を書くようにする。

## おばあちゃん　みていてね

「リン、リン。」

電話をとったお父さんの表情がこわばりました。

それは、病院からのようでした。

「すぐに病院に行こう。」

お父さんはそう言ってみんなに告げ、わたしたちはすぐに準備をして病院にむかいました。

病院に着くと、おばあちゃんの病室には親せきの人たちがいました。

「お母さん、お母さん。」

おばさんが一生懸命におばあちゃんに呼びかけています。お父さんはだまっておばあちゃんをみつめています。おばあちゃんの心臓の動きを示す数がどんどん下がってきました。一気に病室の雰囲気緊張してきました。「お母さん……」「がんばって……」なみだ声だけが聞こえてきます。

しかし、みんなの願いもむなしく、ついに、おばあちゃんは息を引き取りました。わたしは悲しくてなみだがあふれてきました。

明日はお葬式。おばあちゃんとお別れする日です。でも、おばあちゃんが亡くなったことがまだ信じられません。

わたしが学校から帰ってくると、「おかえり。疲れた？　よくがんばったね。」とやさしい声をかけてくれたおばあちゃん。

スポーツ大会の日には、「けがをしないようにがんばってね。」と応援してくれたおばあちゃん。

また、病気で入院していたときに、病院の周りをおばあちゃんの乗った車椅子をおしながらお花見をした時には、「まあ、きれいなこと。こんなふうにしてもらって本当に幸せよ。」とうれしそうに顔で喜んでくれたおばあちゃん。

じっと目を閉じると、おばあちゃんとの思い出が次から次にと浮かんできます。

そして、お葬式も終わり、また、いつもの食事の風景です。

でも、おばあちゃんの椅子にはだれもいません。おばあちゃんの机の上もポカンとあいたままです。わたしは、また悲しくなって、なみだがでてきました。

「和子が、おばあちゃんのことを思い出して、なみだが出てくるのもよくわかるよ。」と、お父さんはわたしを見て言いました。

「悲しいのは、お父さんも同じだよ。でもね、悲しんではかりいられない。お父さんが今ここにいても、おばあちゃんが生んで育ててくれたおかげなんだよ。おばあちゃんからもらった大切な命。元気をだしてがんばって生きていかないとね。」

「そうね。おばあちゃんはお星様になってみんなをおうえんしてくれているよ。」と、お母さんも言いました。

わたしは、心の中で、（うん。）とつぶやきました。

# 活用に生かすための実践報告

「おばあちゃん みていてね」

## 1 主題の設定

かけがえのない生命。それは、遠い祖先から受け継いだものであり、未来の子孫へと受け渡すものである。しかし、近頃では、毎日のようにそのかけがえのない生命がおびやかされる事件が後をたたない。子どもたちの間でも簡単に死に関する言葉を口にしていることを見かけることもある。自分の生命は自分だけのものではなく、生まれてからずっと見守り、支えてくれている周りの人にとってもかけがえのない大切なものである。受け継いだ生命を大切に、精一杯生きていくことを誓う心が自他の生命を尊重することにもつながっていくと思い、この主題を設定した。この資料は、大好きなおばあちゃんの「死」という現実を見つめ、そこから「生」の尊さについて感じ取ることのできる話である。おばあちゃん、おとうさん、わたしと受け継いできた生命を力強く生きていこうとする気持ちに共感させたい。

## 2 指導過程の工夫

導入では、動物の親子のほのぼのとした授乳の様子やえさを与えている様子の写真を提示し、生命あることのすばらしさ、親に見守られ安心している子どもの表情など楽しい雰囲気を作り上げ、資料へつなげたい。

題名を中心発問の後に提示し、本時のねらいを子どもたち自身に意識させるようにしてもよいと思う。

心のノートp65は事前に記入し、それに対する家の人の思いを書いてもらっておくと効果的である。振り返りの発表にも生かせると思う。

家族の人への手紙は時間を十分確保し、教師が代読をし、最後に余韻をもたせたい。

## 3 発問の工夫

中心的な発問では、お父さんやお母さんの

言葉も板書に整理し、おばあちゃんからつながった「わたし」の生命を大切にしていこうとする気持ちの高まりを多様に引き出していきたい。

赤ちゃんの時から今までにがんばってできるようになったことを問う発問では、周りの人の支えもあったことを思い起こさせたい。

## 4 児童の反応（家族の人への手紙から）

・わたしの命はずっとむかしから続いている命です。もし、お母さんが生まれていなかったら、わたしは今いません。だから、わたしは、お母さんたちに感謝しています。いつまでも、自分の命を大切にし、生きていきたいです。

・おじいちゃん、おばあちゃん、いつもやさしくしてくれてありがとう。ずっと元気でいてね。おじいちゃんの子どもの子どもがぼくだから、本当にありがとう。ぼくも、命をつないでいきたいです。

・お母さん、わたしを産んでくれてありがとう。わたしは、この命を精一杯楽しんでいきたいです。今ごろ子どもを殺したり、連れ去ったりした人は相手の人のことを考えないひどい人だと思います。わたしは、自分や他の人の命も大切にする大人になります。

## 5 実践者からの一言

生命の大切さを頭ではわかっている子どもたちにとって、この資料は生命を「つながり」という視点で新たに考えることができたように思う。生命の連続性は、他教科でも扱われているので関連をもたせていくと、もっと深めていけると思う。

連日のように報道される生命をないがしろにする事件を子どもたちは敏感に感じている。現実のきびしさと向き合う一方、日々生命尊重の精神を子どもたちとともに考えていくことも大切なことであると考えて。

（温品小学校 原 義喜）